

## 【事業所や個々で行なっている災害対策】

訪 看	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イエローノートを整える</li> <li>・ イエローノートにハザードマップを入れて全員配布。</li> <li>・ 医療機器のトラブルに家族が対応できるようにしておく</li> <li>・ 停電時のHOTなどの医療機器が心配。</li> <li>・ 医療用電源の時間の確認。非常用バッテリーの事前準備。</li> <li>・ 利用者の医療機器使用状況などをリストアップし優先順位をつけている。平時にどれだけ準備できるか。</li> <li>・ 契約時に災害時にも関わる旨を記載。平時から有事を想定した取り組みをしている。備蓄・電源・災害時拠点の確認。</li> <li>・ 横浜市避難ナビを入れておく。市ヶ尾で7時間停電があり身に迫る経験をし、ナビを入れた。</li> <li>・ 呼吸器以外にも補助が下りるようになってきた。</li> <li>・ 普段から運動靴使用、背負えるバック、飲み物の準備をして訪問している。</li> <li>・ 3.11の際ガソリンが入れられなかったので、メーターが半分になったら入れるようにしている。</li> <li>・ ライフラインが途切れた時に独居の方などどうすればいいのか・</li> <li>・ 普段からの横の連携が大切。</li> </ul>
施 設 ・ デ イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員の安全確保。ストックの準備。</li> <li>・ 利用者のショートステイの対応や受け入れ態勢は、ケアマネとの連絡調整となるか。</li> <li>・ 地域に何かを提供できる体制ではない。</li> <li>・ 施設にもバッテリーの補助は出るのか。</li> <li>・ 酸素ボンベを10本備蓄。酸素会社からは災害時は在宅優先と言われた。</li> <li>・ 福祉避難所を想定した訓練実施。レイアウトもコロナを想定している。阪神淡路大震災のようなキャパはない。</li> </ul>
介 護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急カードを作っているが、避難場所把握まで全員出来ているか？危機管理不足だと思った。</li> <li>・ 急変時対応に重きを置いていた。災害を意識付けしておくことに気づかされた。</li> </ul>
リ ハ 職	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3.11安否確認時、車が動かず電話もつながらなかった、と言う課題がある。</li> <li>・ 利用者の自助力を育てることも大切だと思った。自分たちだけでは無理。</li> <li>・ 青葉区の災害対策検討部会で職種としてどう関わっていくかが課題。</li> <li>・ 医療機器関連を考慮する必要があると感じている。</li> </ul>
薬 剤 師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近隣に団地があり高齢者・独居が多い。交流がなくなっている。誰が青葉災害ネットに登録できているかも知らない。災害ネットの周知が必要。</li> <li>・ 転居者が多いのでいろいろなことを周知したい。</li> <li>・ 災害時に薬剤を届けられるようリュックなどの態勢を作っている。</li> <li>・ 薬剤機嫌の管理。</li> <li>・ 備蓄の啓発。</li> <li>・ 支援者にかかりつけ薬局や関わりのある薬局を把握しておいてほしい。</li> <li>・ 災害訓練に参加しているが、そこまで行かれるか心配。</li> </ul>

ケ ア マ ネ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ツールや周知の取り組みをしている。</li> <li>・ 利用者に在宅避難の啓発をしている。</li> <li>・ 福祉避難所はいざという時、どのように施設へ登録するのか。</li> <li>・ 171 訓練、MCS による安否確認訓練。</li> </ul>
発 言 者 未 記 載	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共助は地域差がある。高齢者が多いエリアではまず優先順位が必要。データベースは必要。</li> <li>・ 福祉避難所はいざというときどうやって施設に登録するのか。</li> <li>・ 支援当初から自助の意識付けをする。緊急対応は万全ではない。</li> <li>・ 独居、身寄りがないなどレッドゾーンの利用者への備え。</li> <li>・ 自宅避難が基本</li> <li>・ 避難カードの申請・物資の受け取り・支え合いカードのアップデートや運用の見直し</li> <li>・ 最寄りの避難訓練に参加して体験してみる</li> <li>・ 事業所間連携が大切。個人情報の取り扱いが課題。</li> <li>・ おむつの個人での備えは必須</li> <li>・ 寝室に危険なものを置かないように声掛けやチェックをしている。(地震時に飛んでくるリスクあり)</li> </ul>

【ほかの職種に聞いてみたい事・地域連携で困っていること・その他の話題】

- ・ なしかちゃんボトル(支え合いカード)はどのくらい周知されているのか
- ・ 本人が来られない場合代理でも薬の処方は可能か?⇒災害発令されたら、お薬手帳があれば決まった日数分の処方が可能。基本的には1週間分の余分を持っていて欲しい。特に切らすと困る薬の用意を。
- ・ ケアプランに災害対策の記載があると共有できて良い
- ・ イエローノートは浸透しつつあるが、消防隊員が認識してくれると良い。支え合いカードのように置き場所を決めるのも手ではないか。
- ・ スタッフの教育や周知が必要。
- ・ 医療機関などと普段からの連携しておく。
- ・ 支援者側の移動手段確保。
- ・ 緊急時の連絡手段の確保…MCSの活用も有用ではないか
- ・ 災害時の薬剤処方について、やっぱり処方箋は必要。手続きとして課題がある。
- ・ 3/11の時はガソリンが確保できなかった。
- ・ 自分たちの身を守るためのストックはあるか。
- ・ 私の災害対策ファイル活用。サービス開始時に災害も想定して話し合いの内容を入れ、利用者関係者間で共有。
- ・ 利用者へ災害時の準備や情報を提供。
- ・ サービス担当者会議に薬剤師を呼んで、災害時の役割について情報共有する。
- ・ 3.11の時に仙台にて被災し、ケアマネと包括業務をされていた方の経験談  
ガソリンは医療機関などには優先的に支給されたが、福祉車両は優先されず手に入れられなかった。  
物資もわずかなお菓子などが来た程度。  
避難所によって物資が来る度合いに違いがあった。自衛隊の風呂も避難所により差があった。  
障害者・高齢者・ペットなど、避難所に居られる状態ではなかった  
食料品は全く買えなかった

安否確認などの訪問は自転車や徒歩。車は使えなかった。

沿岸部から家が無くなった人、受傷した人が内陸部へ移動して、ショートステイなどは部屋の人数制限を設けずに受け入れた。

避難所には津波に合いメンタル不調を持つ方が多く、相談対応をした

自宅が半壊以上の方は、医療保険・介護保険の費用負担が免除となった

状況に応じてボランティアの受け入れを行った

避難所に介護予防のための対応に出かけて行った

沿岸部から支援要請があったが、とても行かれる状況ではなかった。おそらく他県からいらして下さっていたと思う

電気2日、水道とガスは1か月使用できず。水がなくデイは1か月再開できず。自分たちの入浴も週に1回。ふろ水の残りや井戸水でトイレを流して使用。

自分で災害の準備をしておく。備蓄を普段からしておく。すぐに逃げられる準備をしておくことが大切。